

2025
冬号
No.101

ほ な み
穂 濤
For WASEDA University Old Boys & Girls

発行所
早稲田大学藤沢稲門会
事務局
FAX 050-3730-7252
E-mail:w.fujisawa@
crocus.ocn.ne.jp
発行人 笹井修一
穂濤編集委員会

活発な意見交換が行われる

県支部大会2025

11月1日(土) 今年の神奈川県支部大会は、鎌倉稲門会主管により鎌倉プリンスホテルバンケットホールにて開催された。

偏差値教育から脱却して答えの見えない時代に答えを求めていく人材を育成する早稲田、世界に輝く研究・教育・貢献の早稲田になる。講演後、兵藤鎌倉稲門会会長より

左手は逗子、葉山から城ヶ島まで望める。
定刻の午後2時30分、拍手と早稲田の栄光の伴奏に伴われての大会旗の入場、兵藤芳朗鎌倉稲門会会長が先導し、田中愛治早稲田大学総長、大学からの来賓、東島正樹神奈川県支部長(横浜稲門会会長)、県下の14の稲門会会長が入場し、壇上に並べられた。参加者数は、県下の14稲門会及び大学関係来賓を合わせて227名で、藤沢稲門会からは笹井修一藤沢稲門会会長以下16名が参加した。



県下稲門会会長の皆様

まず、「鎌倉らしい」「身の丈に合った」おもてなしをとの思いから、と始まった兵藤会長からの歓迎のことば。続いて東島県支部長の挨拶、来賓及び県下14稲門会長の紹介と続いた。そして田中大学総長より来賓挨拶と「創立150周年記念事業」2032年をこえて」と題した講演があった。

十段(鎌倉稲門会)による記念講演「日本刀とふれあう」と今泉威夫同協会八段(逗葉稲門会)による日本刀演武協力を経て閉会し、午後4時40分より懇親会へ移った。司会の田中實鎌倉稲門会幹事長の開会宣言の後、兵藤鎌倉稲門会長の挨拶、早稲田大学来賓者の紹介と来賓者挨拶と乾杯を経て、ア

トラクションを楽しみながらの懇親会となった。早稲田大学応援部元リーダー・元チアリーダーの演技が行われた。当日は、神宮球場早慶戦と重なったので、社会人成り立ての応援部OB及びOG諸氏の登場となった次第。

ことしを振り返り、新しい一歩を



藤沢稲門会会長 笹井修一

会長を引き受け、早2年近くが経過しました。今年をレビューしつつ、来年度に向けての考え方を述べます。

●幹事会の若返りと活性化

毎回活気ある議論が交わされ、笑いの絶えない幹事会となりました。

●新しい行事

新しい行事が企画され、とりわけ女性委員会の企画は毎回好評です。

●活動の場を広げる

地引網に障がいのある子供たちを招く企画は、今年も荒天で地引網そのものが中止になりました。かわって社会福祉法人エール湘南の農園での収穫体験を皮切りに、無農薬野菜など「食と安全」への関心を深めていきます。



懇談後、鎌倉稲門会から小田原稲門会へ大会旗が継承され、次回主管の和田雅邦小田原稲門会会長から挨拶があり、校歌斉唱・エールの後、江副路子鎌倉稲門会副会長の閉会挨拶で散会した。
(青木 康記)

●クラウド会計の導入

いつでも瞬時に財政状況を把握できるようにしました。それにより会費徴収の徹底など財務課題も明確になりました。

●会員増強

県下の稲門会が会員数の減少に悩む中、当会は順調に会員数を伸ばしています。駅伝応援は勧誘の好機ですが、ここでの発芽を入会まで維持してゆく工夫もしています。

LINE公式アカウントには、176名の登録があり、会員以外の若い校友が多くを占めています。登録をさらに増やし、コンテンツも充実するためのプロジェクトは来年度の大きな課題です。

穂 漣

稲門祭55周年記念大会

稲門70年卒会

稲門祭当日の10月19日(日)、1970年次稲門会主催による「卒業55周年記念大会」が戸山キャンパス近くの染谷国際記念会館レセプションルームで行われた。

記念大会の開催は2019年の50周年以来で、参加者は間もなく傘寿を迎える年齢。学部をまたぐ同期一同の会合もこれが最大の機会になるのではないかと、う意気込みで参加した。

藤沢稲門会からは、参加グループ最大の5名(内田、公平、中野、下村、武田)が出席。参加者一同の会話が弾む中、同会の副会長として今回の開催に尽力された公平さんの司会により、和気あいあいと進められた。

会長の谷沢健一氏は東京6大学リーグで在学中2回の優勝を経験。

ありがとう早稲田 散じて集まる稲門の絆

2025稲門祭

10月19日(日)に2025年稲門祭が開催されました。事前の天気予報では雨予想でしたが、当日は日差しも出て屋外イベントも無事開催されました。

稲門祭とは、卒業5、10、15、25、35、45、50年目を迎える校友が大学から招待される「ホームカミングデー」に合わせて開催される早稲田大学校友会最大のイベントです。

2025稲門祭のテーマは「ありがとう早稲田」散じて集まる稲門の絆」でした。

藤沢稲門会からは私と野田和宏会員が稲門祭記念品販売実行委員会に参加しました。稲門祭記念品の販売による収益は全額が学生の奨学金に充てられます。早稲田アリーナ前テントにて、奨学生とともに、ホームカミングデー来場者の皆さんに稲門祭記念品の販売を担当しました。

なお、藤沢稲門会では事前に稲門祭記念品の購入を募り、実績としては、26名で36品の購入で、売上金額は152,000円になりました。

来年は1986年次稲門会員の皆さんが中心となって開催

中目ドラゴンズでは17年間主軸打者として活躍、引退後は野球解説評論家を歴任された。

会長挨拶の中で、優勝時の思い出や野球部への愛、特に今回創部125周年としての第14回国遠征実施への協力を熱く語られた。

70年次校友会は最古参の組織であるが、谷沢氏の穏やかで気さくな人柄が、この会を継続させてくれた一つの要因ではなかったかと思われた。

また同期の早稲田大学第16代総長鎌田薫氏は乾杯挨拶で、我々の



早稲田アリーナ前の記念品販売所

されます。多彩なシンポジウムや音楽イベントなどが盛りだくさんで1日楽しめます。交友としてぜひ参加されることをお勧めいたします。

市島 徹(平3教育)

平成卒の会

「神奈川県稲門会 平成卒の会」主催のBBQが8月30日(日)、海の家「LOCOHALOI(藤沢市鵜沼海岸)」で開催され、今回は6名とちよつと寂しい人数でしたが、藤沢、茅ヶ崎、鎌倉稲門会から参加がありました。

8月の終わりに関わらず酷暑の中、湘南の潮風を浴びながらBBQで肉や海



海岸でもWASEDA

夏の終わりのBBQ

鮮、野菜を焼きながら、お酒を飲むのは格別で、飲み過ぎたお酒をクールダウンするため、海に行っ

青春時代の世相はまさに大きなエネルギーがぶつかり合うカオス状態だった。しかし、「団塊の世代」と言われた我々がいかに戦後日本の経済的復興、そして早稲田大学発展に寄与したかなどの経験談を披露、参加者全員深く感銘納得し、同世代人として誇りを持つことができた。

アトラクションは「なつかしのカントリーウエスタン」、稲門卒業生の演奏で盛り上がり、会場の雰囲気も最高潮。

最後は、参加者全員で肩を組み、「早稲田の栄光」「都の西北」を声高らかに熱唱、そしてエール交換。半世紀を超えて続く絆の深さ、ご縁のありがたさ、心温まる再会のひととき……別れ難い秋の一日であった。

中野正一(昭45教育)



稲門70年卒会参加者一同

穂 漣

て体を冷ましたり、夏の海を満喫致しました。

今年より杉下由輝（藤沢稲門会平成9年教育卒）から、志村健二新会長（茅ヶ崎稲門会平成6年教育卒）になり、今後もお互いの懇親を深める共に、若手会員の拡大について、意見交換を行いました。今年初め、早慶戦の観戦ツアーを企画し、今後は恒例の早明戦観戦ツアーだけでなく、山梨県

ワイナリー等、お酒の進み具合に比例して、新たな企画も沢山出てきました。

時代は令和になり、平成卒の会のメンバーは稲門会では若手から中堅の世代になってきましたので新たな「令和卒の会」誕生に向けて、応援・支援を新たな方針を付け加えて、夏の終わりのB B Qを締めくくりました。

杉下由輝（平9教育）

秋の収穫祭実現を目指して

収穫祭トライアル

藤沢稲門会の多くの方が参加する地引網。大変好評で毎回盛り上がりがあります。この「海のイベント」に対して「山のイベント」もあってもよいね、と幹事の中でちらほらと話しが出たのは本年春頃。海が漁業なら、

長靴、手袋姿で皆悪戦苦闘しましたが、徐々に熱中し始めて終わってみれば皆さん大地のエネルギーをしっかりと吸収し笑顔の体験でした。今回は収穫のみでしたが、いずれは収穫&芋煮、B B Q、さらには作付け・栽培・収穫、と可能性は広がります。

野田和宏（平3工研）

山は農業。例えば地元藤沢産の野菜収穫体験を通して稲門会員の交流を深める新たな機会を作れないか？と体験型の山のイベントの立ち上げを模索しています。去る11月9日、まずは実際に体験をといて、幹事有志（14名）が雨の合間に野菜収穫に出向きました。市内遠藤の社会福祉法人エール湘南・リガールさんから



エール湘南・リガールにて

茅ヶ崎・藤沢稲門会 合同テニス交流会開催！

藤沢テニス同好会

2025年11月2日（日）、茅ヶ崎と藤沢の両稲門会による合同テニス交流会が開催されました。新型コロナウイルスの影響もあり、前回2019年6月以来、実に6年ぶりの開催となり、両稲門会から約20名のテニス愛好家が集結しました。

4ゲームを行う親睦を深めるためのゲーム練習を実施。参加者は一人あたり約6試合をこなし、日頃接する機会の少ない両稲門会メンバーとの交流を大いに深めることができました。

スポーツで心地よく汗を流した後は、会場近くの鉄砲通り沿いにある中国料理店「老李 (Lao Li)」にて懇親会を開催。テニスの熱戦を振り返りつつ、茅ヶ崎稲門会の蓮本前会長も加わり大いに盛り上がり、楽しいひとときを共有しました。

会場は、サザンオールスターズゆかりの野球場がある茅ヶ崎公園のテニスコート。全4面のコートを貸し切り、爽やかな秋空の下、2時間にわたりプレーを楽しみました。

今回の交流会開催にあたり、スヶジュールの調整や会場の手配などにご尽力いただいた茅ヶ崎の長田康文さん、藤沢の須田昌克さん



合同テニス交流会参加者一同

に心より感謝申し上げます。今後もこの良き交流会が開催され、皆様と笑顔で再会できる日を楽しみにしています。藤沢稲門会テニス同好会では、新規の仲間を募集しています。興味がある方は齋藤 (noreplyjohn@kym.biglobe.ne.jp) ままでご連絡ください。齋藤昭弘（平1商学）

ISUZUプラザ訪問記

第8回藤稲遊歩会

11月15日（土）第8回遊歩会がISUZUプラザで開催された。

ISUZUプラザは、いすゞ自動車創立80周年記念事業の一環として2017年4月に藤沢工場の隣接地に開館し、「運ぶ」を支えるいすゞのくるまづくりと稼働サポート、歴史などを紹介している。湘南台駅よりシャトルバスで

到着した一行24名は、往年の名車「117クーペ」に迎えられる。車好きの元若者達が群がり、眺めたり、思い出を語ったり、写真を撮ったりと懐かしんでいた。

受付後は、「働く車」のミニチュアカーが自走するジオラマを見学。尚、このジオラマは日本最大級のジオラマとのこと。次にバスやトラックといった現在のいすゞ車が展示されているスペースに向

かう。ここでは運転席や客席・荷台に自由に乗ることができる。防衛省に納入されている自衛隊の大型トラックも展示されており、運転席と後部荷台に座ってみたが実に乗り心地が悪い。被災地にこの車で救援に向かう自衛隊員の皆様のご苦勞を思うと頭が下がる。

2階のフロアでは、稼働サポート、新車開発プロセス、工場の製造ラインの模型がゲームとともに紹介されており、奥には、いすゞの歴史とともに歴代の名車が展示

